

学年	高校3年	教科	数学科	科目	数学演習	単位数	6
教科書名	Challenge Workbook 文系数学(学研)			副教材名	サクシート数学I+A(数研出版) サクシート数学II+B(数研出版)		
コース・クラス	N進文系						

I. 目標

数学の基本的な原理や法則を理解させ、知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を育てる。日本大学基礎学力到達度テストで必要な数学I・A・II・Bの基本事項を学び、日本大学基礎学力到達度テストの得点率8割を目標とする。

II. 授業のねらい

基本事項をしっかり理解し、知識を整理するとともに、総合的に数学を解く力を身につける。その時々で問題を解く時間を設定し、日本大学基礎学力到達度テストをイメージさせる。

III. 授業の進め方

1. チャレンジワークを中心に、授業を展開する。日本大学基礎学力到達度テストの過去問題や演習プリントなども適宜教材として扱う。
2. 小テスト実施し、定着の度合いを図る。

IV. 学習上の留意点

1. 問題集、問題集用ノートを用意して授業に臨むこと。
2. 定期試験の返却後、間違えた問題を確認し、復習を必ず行うこと。
3. 提出物の期限は必ず守ること。

V. 定期試験

問題集の内容を中心に、日本大学基礎学力到達度テストレベルの問題を出題する。

- 1学期 中間試験 : 数学I A、II B
- 1学期 期末試験 : 数学I A、II B
- 2学期 中間試験 : 数学I A、II B
- 2学期 期末試験 : 数学I A、II B

VI. 評価の方法

定期試験、小テスト、提出物の提出状況と内容、授業の取り組み方などを総合的に評価する。

Ⅶ. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	数と式 2次関数 三角比 データの分析	定期試験 小テスト 提出物	<ul style="list-style-type: none"> 基本事項を確認し, Challenge Workbook を通して, 応用力を身につける。 演習プリントを通して, 日本大学基礎学力到達度テストにより近い問題に慣れる。 日本大学基礎学力到達度テストを意識し, 時間配分を考えながら問題に取り組むことができる。 幅広い知識を習得し, 個人で勉強を進めることができる。
	5	場合の数 確率 整数の性質 図形の性質 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数		
	6	指数関数・対数関数 微分法と積分法 数列 ベクトル		
	7			
二学期	9	到達度テスト過去問演習	定期試験 小テスト 提出物	<ul style="list-style-type: none"> 過去問題を使用して, 各々正答率を上げる。過去問題で8割以上得点できる。 大学入学後を見据え, 高校数学だけでなくいろいろな数学の問題に取り組む, 知識の幅を広げる。
	10	問題演習		
	11			
	12			

※ シラバスの内容(時間や事項)については, 理解度やその他の都合により変更することもあります。